

英国における競技普及に関する調査レポート

令和3年度 スポーツ庁委託事業
中央競技団体の経営力強化推進事業
実施内容①「事業環境の調査・分類」

2021年3月31日

中央競技団体の経営力強化に係る検討会

目次		
第1章 調査概要・結果サマリー		
1. 調査対象国の選定	1	
2. 調査目的	2	
3. 調査結果サマリー	3	
第2章 調査結果詳細		
1. 英国スポーツ文化の特徴	4	
1. スポーツの位置づけ	5	
2. スポーツ施設の保有・運営者	6	
3. 競技統括団体の設立経緯	7	
4. 競技統括団体の役割範囲	8	
2. 英国/イングランドのスポーツ政策概要	9	
1. スポーツ振興戦略の推移	11	
2. スポーツ政策における主要プレーヤーと役割	12	
3. スポーツイングランドによるNGB支援事例（Whole Sport Plan）	13	
	14	
	15	
	16	
	17	
	18	
	19	
	21	
	23	
	23	
	24	
	26	
	27	
	28	
	29	
	30	
	31	
	32	
	33	

※英国内の「日本における中央競技団体（NF：National Federation）」と同等の組織について、競技統括団体（NGB：National Governing Body）と表記する

第1章 調査概要・結果サマリー

1. 調査対象国の選定
2. 調査目的
3. 調査結果サマリー

1. 調査対象国の選定

- 日本と社会的・経済的背景が類似しており、官公庁や中央競技団体（以下、NF）が政策や競技普及の観点で既に参考している国から選定し、最終的に英国/イングランドを調査対象とした。

前提条件

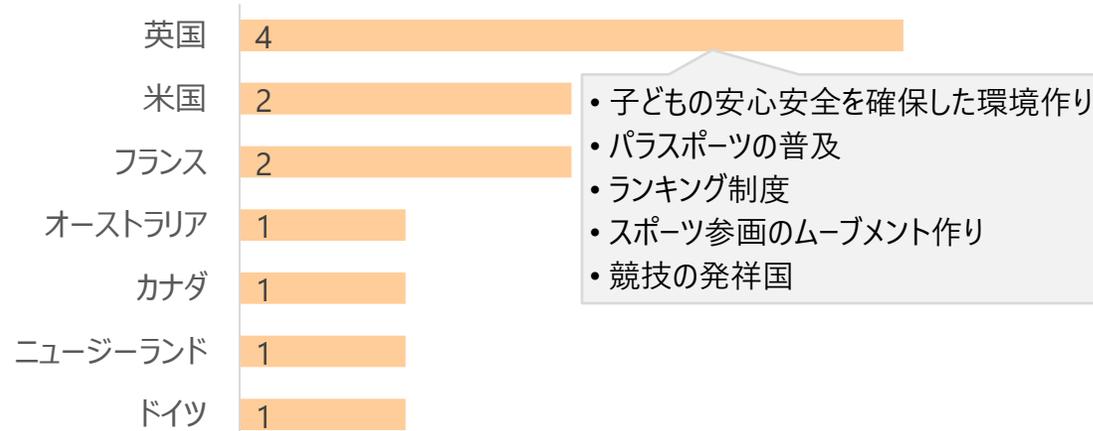
以下の前提を踏まえ、NFにおける競技普及の参考国から選定

- 民主主義国家であること
 - 国家の社会思想・体制が異なる場合、スポーツ発展の歴史や政策、国民にとってのスポーツの位置づけが大きく異なる可能性があるため
- 先進国であること
 - 先進国と途上国では、「する人」の経済的・時間的な余裕によって普及の進み方や、スポーツの位置づけが異なると思料
- スポーツ政策上の参考国であること（英国、オーストラリア、カナダ）
 - 育成・強化方針は、英国やオーストラリアが参考国
 - ガバナンスコードでは、上記2か国に加え、カナダが参考国
 - スポーツGDPの観点では、上記3か国が参考国

中央競技団体における競技普及の参考国（n=6、複数回答）

競技普及において英国を参考に行っている国が最も多いため、英国/イングランドに決定

凡例 NFが参考に行っている情報



■ 英国（グレートブリテン及び北アイルランド連合王国）は、「イングランド」「ウェールズ」「スコットランド」「北アイルランド」の4地方から成り立ち、異なる地方行政制度がある

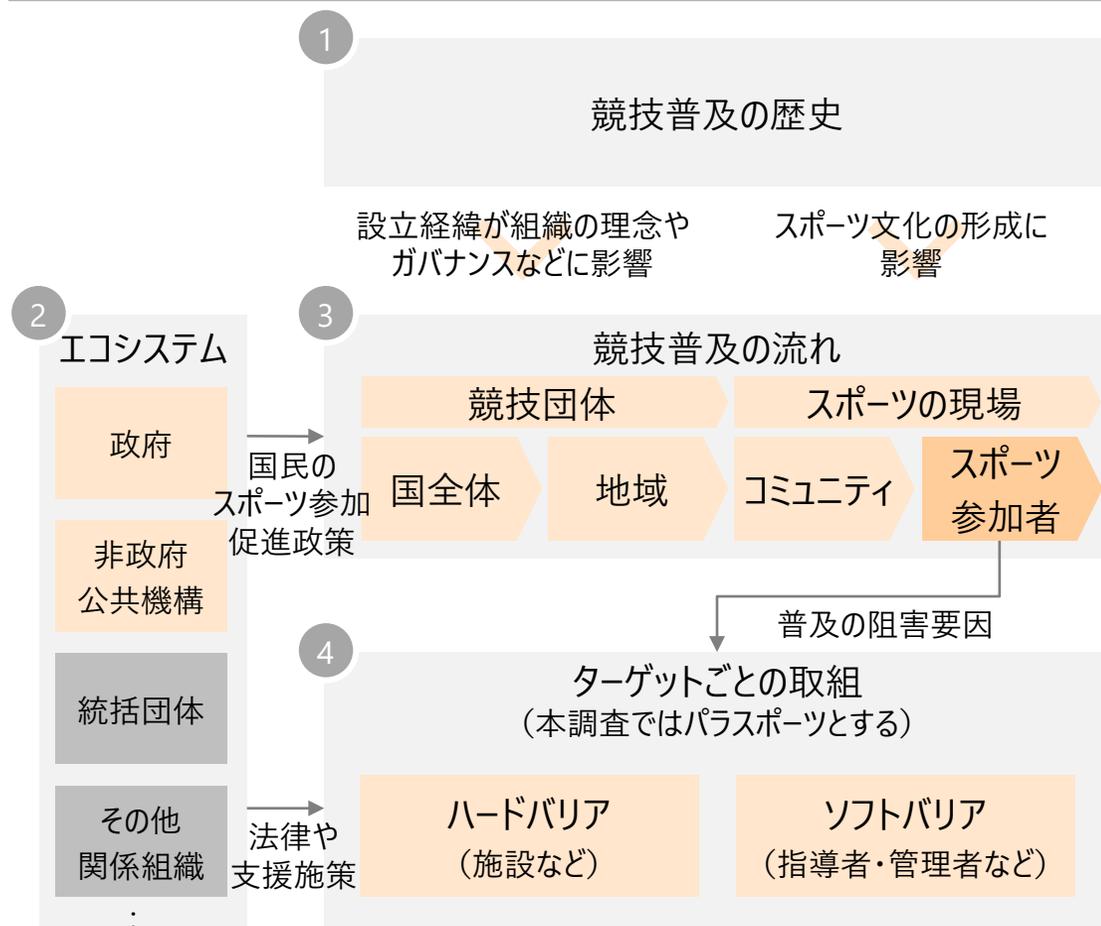
■ 本調査では、原則英国に関する調査だが、調査内容によっては地域差が存在する場合もある。その場合「イングランド」を代表例として取り扱い、「**英国**」と「**イングランド**」を**区別して表記**する

出典：NFに対するヒアリング結果を基にアビームコンサルティング株式会社（以下、ABeam）作成（n=15、内、海外情報の収集体数6）

2. 調査目的

- 「する人・団体」の拡大・維持は、スポーツの現場（以下、現場）が担う。現場のスポーツ活動は、競技普及の歴史や文化、エコシステムの影響を受けており、近年では多様性を包摂した社会の実現に向けた対応が求められている。
- 本調査を通じ、英国スポーツの歴史や文化、政策、競技統括団体*の役割、パラスポーツの普及の取組を把握する。

競技普及活動の全体像



英国/イングランドにおける事例調査目的

- 1 競技普及の前提となるスポーツ文化の特徴
 - 英国では、どのようにスポーツが普及したか
 - 現在のスポーツ文化に影響を与えている特性は何か
 - NGBはなぜ設立され、どのような役割を担っているか
- 2 競技普及に向けたスポーツ政策
 - 英国国民のスポーツ参加増進に向け、どのようなスポーツ政策があるか
 - スポーツ政策には、どのような組織が関係するか
 - NGBは、政策上どのような役割を担っているか
- 3 競技普及に向けた競技統括団体の役割
 - NGBは、各地域とどのようなガバナンスを構築し、またどのような支援をしているか
 - NGBは、コミュニティやスポーツ参加者とどのような関係を構築し、スポーツ活動を支援しているか
- 4 パラスポーツの普及に向けた取組
 - 英国内のパラスポーツの普及に向け、どのようなスポーツ政策があるか
 - NGBは、パラスポーツの普及に対して、どのような活動を行っているか

4 *競技統括団体（National Governing Body）は、以後NGBと表記する

3. 調査結果サマリー

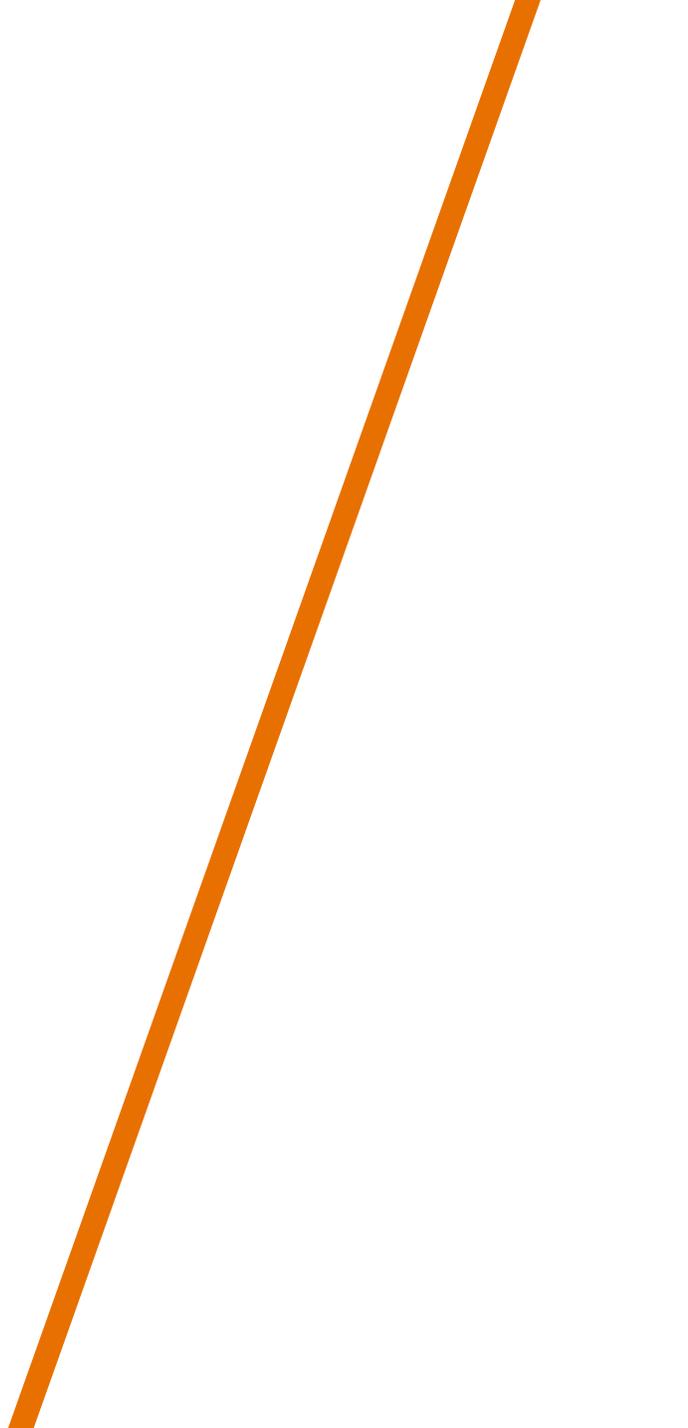
- 英国の競技団体は、現場における日常的なスポーツ活動の支援が充実している。
- 特にスポーツ関連データの利便性を高めるような環境整備やコミュニティ支援策、登録会員制度などは、参考にできる。

調査内容	調査結果サマリー	参考事項
競技普及の前提となるスポーツ文化の特徴 (P7～12)	<ul style="list-style-type: none">• 英国では、余暇時間に人と交流する手段として、「クラブ」というコミュニティを通じてスポーツが普及した• スポーツ施設はクラブが保有することが多く、「する人」はスポーツ参加費を支払うことが多い• イングランド全域のスポーツ施設情報が一元管理され、オープンデータ化している• NGBの設立経緯が、大会運営組織ではなく、現場の支援が主目的であった• 「地域」「年代」「性別」ごとの競技団体は確認できず、パラスポーツ含め、NGBが統括している	日本ではデータ保有者が別組織であるため、スポーツ関連データが分断され、利便性に欠ける <u>NGBや支援組織による情報の一元管理などの情報環境の整備は、参考になる</u>
競技普及に向けたスポーツ政策 (P13～16)	<ul style="list-style-type: none">• 地域社会の安定化や健康・社会保障問題の解決手段として、スポーツが中核として据えられ、スポーツ政策にかかわる各組織の役割分担が明確に定まり、また連携も図られている• スポーツの参加増進のために、NGBの普及活動に多額の助成金（年平均120億円）が交付され、政策が各地域まで浸透する仕組みが構築されている	日本では競技普及はNFの自主性に拠るものとしている。スポーツ実施率などの社会問題の解決のためには、政策上の位置づけの見直しも参考になる
競技普及に向けた競技統括団体の役割 (P17～29)	<ul style="list-style-type: none">• 普及の実務を担うコミュニティの活動を日常的に支援するために、NGBは戦略策定、資金調達、外部団体との事業連携、登録会員・コミュニティ制度の運用などを行っている• <u>「する人」に施設や指導者の検索などの情報提供</u>を行い、<u>「コミュニティ」に運営支援情報や助成金情報など情報提供や運営管理システムなどの提供</u>を行っており、特に登録会員制度において、登録会員ニースを踏まえたメリットが設計されている	<u>NGBの登録会員制度を活用した「する人」「コミュニティ」に対するスポーツ活動の支援策は参考になる</u>
パラスポーツの普及に向けた取組 (P30～34)	<ul style="list-style-type: none">• 障がい者のスポーツ参加促進のために施設利用が法的にも守られており、非営利組織やNGBから施設ガイドラインや、障がい者のスポーツ参画促進のために指導者などに向けたガイドラインが発行されている• イングランド内の障がい者の現状について視覚的に分かりやすいレポートが発行され、スポーツ参加に向けたポイントを押さえるだけでなく、市場性が伝わるものになっている• 全スポーツ施設の95%が、何らかの形でバリアフリー化をしている	<u>パラスポーツの現状把握のための情報環境の整備やスポーツ参加の上でのガイドラインを作成していることは、参考になる</u>

第2章 調査結果詳細

1. 英国スポーツ文化の特徴
2. 英国/イングランドのスポーツ政策概要
3. 競技統括団体の「する人・団体」の普及活動
4. パラスポーツの普及施策

1. 英国スポーツ文化の特徴

1. スポーツの位置づけ
 2. スポーツ施設の保有・運営者
 3. 競技統括団体の設立経緯
 4. 競技統括団体の役割範囲
- 

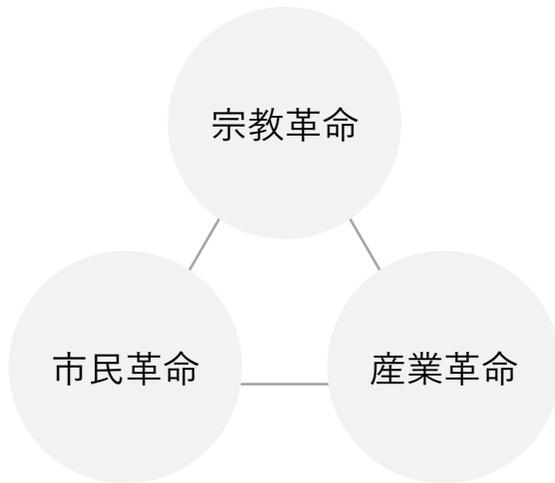
1. スポーツの位置づけ

- 英国では、スポーツは仲間同士の楽しい交流の手段となっている。
- 近代英国では、同じ地域内の同じ趣味・趣向を持つ仲間との楽しい交流を目的としたクラブが全域に存在し、スポーツは、そのコミュニティの交流手段の一つとして普及した。

クラブ文化とスポーツの位置づけ

交流目的以外のコミュニティの志向性（例）

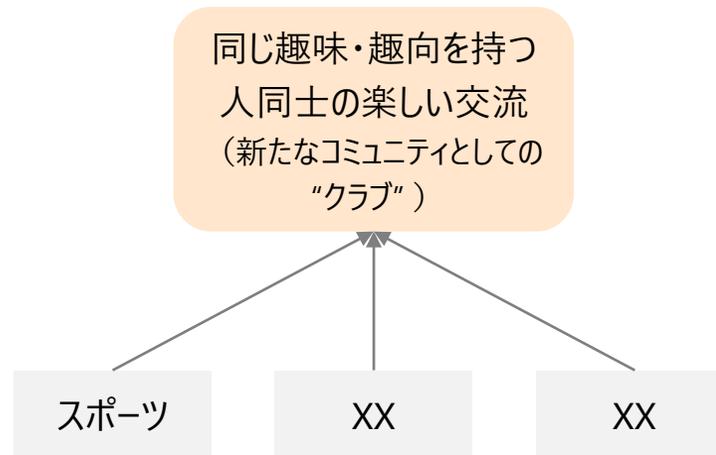
中世～近代欧州の アイデンティティの喪失



自身を説明する後ろ盾のルールが変更
(宗教・身分・地域コミュニティ/家庭)

個人としての
自立の必要性

新たなアイデンティティの形成



スポーツは、コミュニティ内の交流を楽しむ手段
→ “日常生活を充実させる手段としてのスポーツ”

スポーツ実施が目的



スポーツ実施を目的にコミュニティに所属
→ “スポーツ体験を得る手段としてのスポーツ”
スポーツの勝敗の結果から得られる対価に期待
→ アマチュアスポーツの商業主義化

名誉獲得・宣伝目的



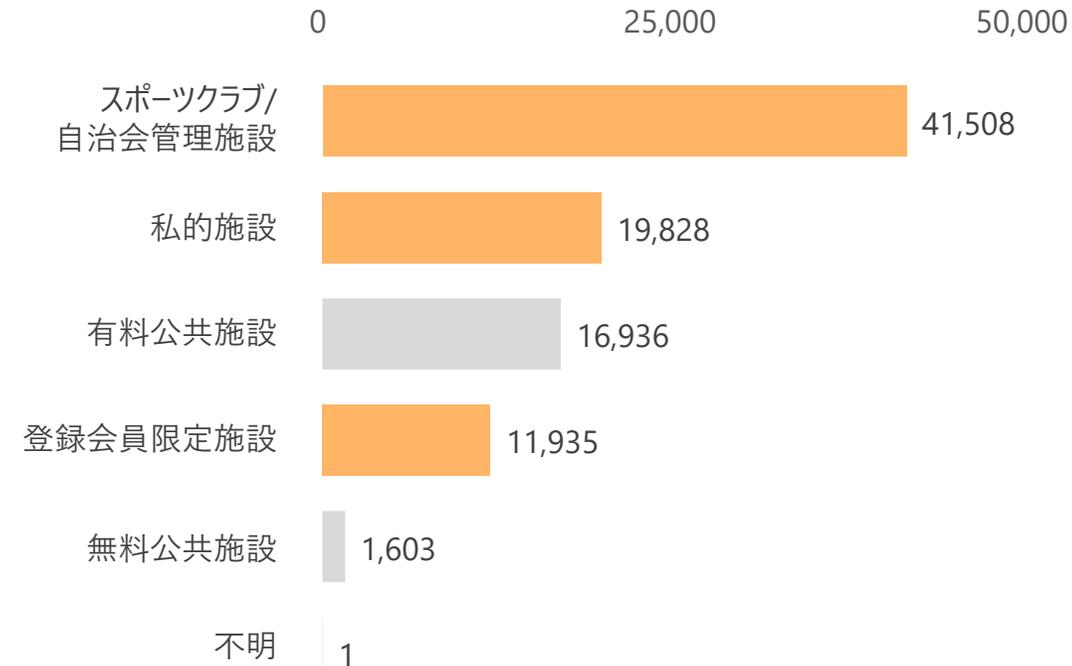
2. スポーツ施設の保有・運営者

- 英国では、スポーツ参加者がスポーツ実施時に参加費・施設利用費などを支払う習慣がある。
- 多くのスポーツ施設は、クラブや民間などの非公的機関にて保有・運営されており、提供サービスに応じた価格設定に裁量を有していることがその要因と推察される。

イングランドのスポーツ施設の種類 (n=91,811)

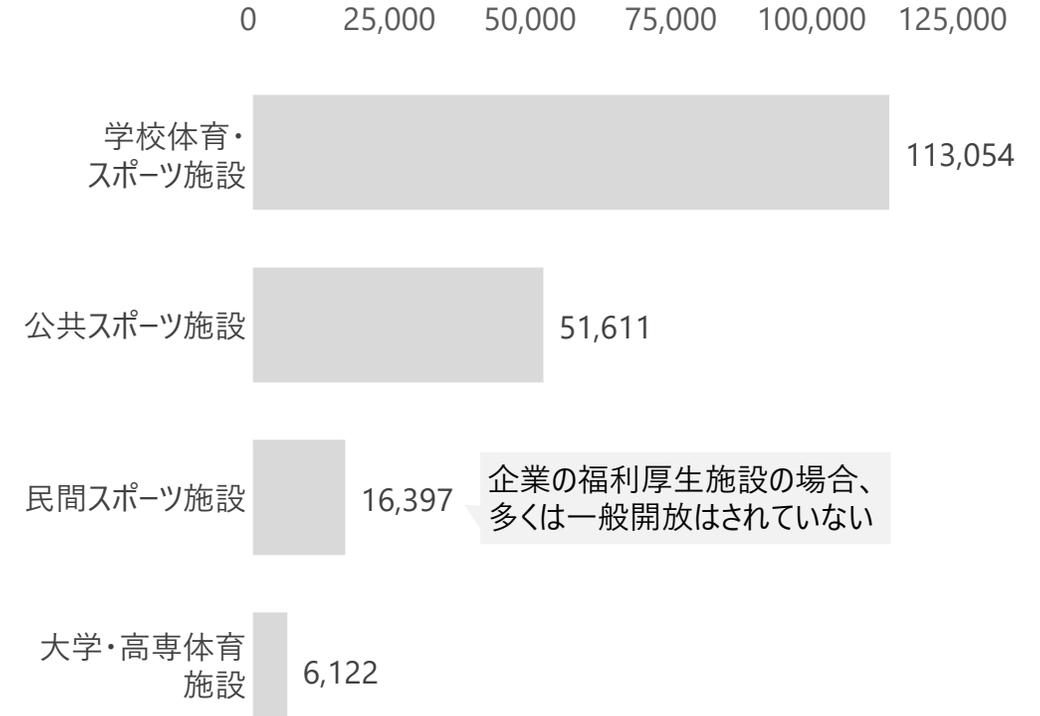
イングランド内のスポーツ施設は、スポーツクラブや私的施設が多く、スポーツ参加費が発生する場合が多数

凡例 ■ 公的機関の保有施設 ■ 非公的機関の保有施設



(参考) 日本の体育・スポーツ施設の種類 (n=187,184)

日本のスポーツ施設は学校施設が多く、スポーツ参加費は発生しない場合が多数



出典：スポーツイングランド「Active Places Power」、スポーツ庁「平成30年度スポーツ庁体育・スポーツ施設現況調査結果」を基にABeam作成

- スポーツイングランド（後述）は、イングランド内部の全スポーツ施設情報を管理しており、政策の柱の一つでもあるスポーツ施設の充実に対し、定量的な効果検証を行い、成果向上を図っていると推察される。
- 施設情報のオープンデータ化・API提供がなされており、外部の施設予約サイトなどで利用されている。

スポーツ施設情報の管理項目（一例）

No.	大項目	小項目	データ型	選択リスト（参考）	参考ポイント
1	ID	施設ID	数値		全施設を一意的IDで管理
2		サイトID	数値		複合施設にも対応可能
3	施設分類	競技	選択リスト	陸上競技場、フィットネスジム、プール、ゴルフなど	
4		形態	選択リスト	常設、大人用/子ども用、芝生の有無、サイズなど	
5	管理者分類	管理者	選択リスト	無料公共施設、有料施設、私的設備など	公的予算を投資すべき施設の範囲の明確化が可能
6		時間帯	選択リスト		
7	付帯設備	更衣室	選択リスト	有無	
8		障がい者の利用可否	選択リスト	有無	
9		バリアフリー-付帯設備	選択リスト	10項目から選択	障がい者のスポーツ参画時の阻害要因の指標として活用可能
10	施設情報	設立日	年月日		
11		改修・再舗装の有無	選択リスト	有無	
12		最新の改修・再舗装日	年月日		公的予算の見積もりに活用可能
13		更衣室の改修有無	選択リスト	有無	
14		最新の改修日	年月日		
15		施設の運営状況	選択リスト	計画中、建設中、運営中、臨時閉鎖、閉鎖、その他など	
16		閉鎖理由	テキスト		閉鎖理由を把握することで、対応施策の検討が可能

3. 競技統括団体の設立経緯

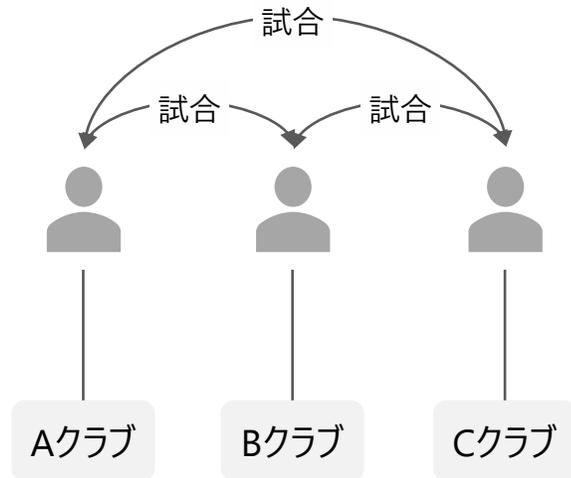
- 競技団体設立前はクラブ間で競技ルールが異なっており、スポーツをさらに楽しむためのルールの統一化が必要だった。そこで、各クラブの代表者や審判が集まり、現場の活動の支援方針を検討する場として競技団体が設立された。
- そのため、加盟コミュニティや登録会員への支援やサービス提供は、現在も競技統括団体にとって重要な役割である。

英国における競技統括団体の主な設立経緯

試合を通じて更にスポーツを楽しむためには統一されたルールが必要

NGBが統括するスポーツのルールを作り、クラブ間の交流をはじめとした普及や競技力強化を推進

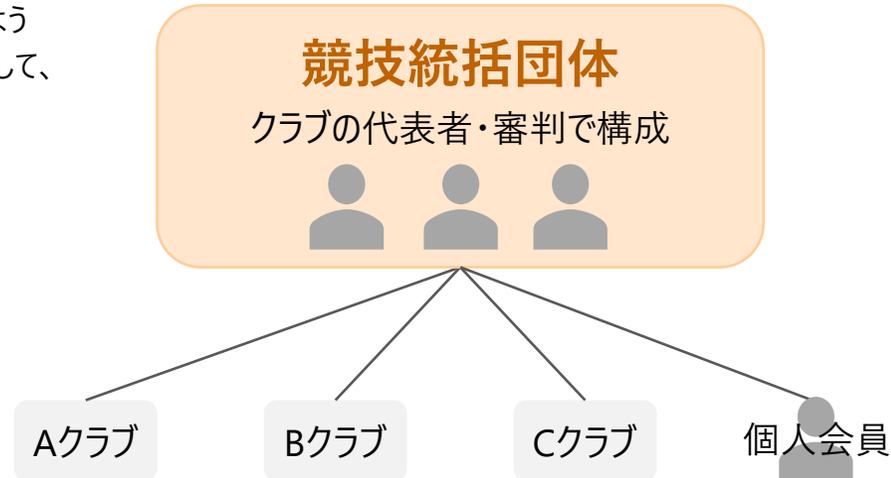
競技団体ができる前は、毎回異なるルールで試合を実施



更にスポーツを楽しむよう
クラブ間の話し合いの場として、
統括組織が形成



加盟コミュニティ及び登録会員への支援やサービス提供を
第一義とした意思決定がしやすい仕組みが構築

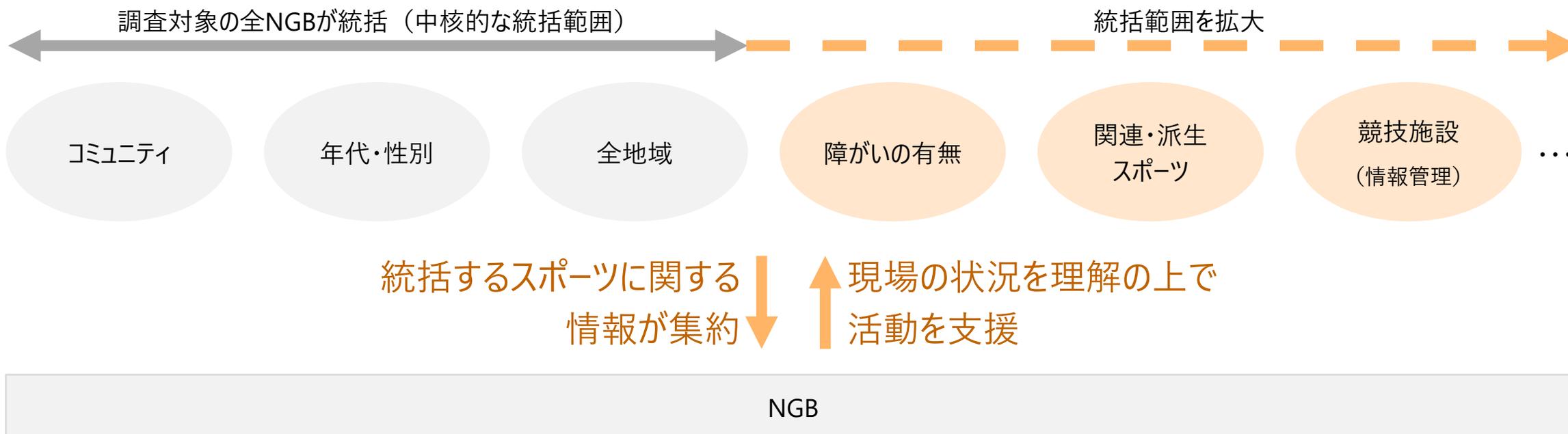


4. 競技統括団体の役割範囲

- NGBは、統括するスポーツにかかわる情報を集約できる組織ガバナンスを構築している。
- そのため、NGBは、全体を俯瞰できる現状データ・知見などを集約し、事業環境に合わせた経営資源の配賦や各種施策の企画・実行、統括するスポーツを代表した外部組織との事業連携を実施している。

NGBの統括するスポーツの範囲

「する人・団体」のセグメントごとに別法人を設立するのではなく、NGB自体の事業範囲に包含*
結果、NGBは統括するスポーツ全体を俯瞰し、必要なセグメントにヒト・モノ・カネ・情報などの経営資源を投下する仕組みの構築や各種施策、外部組織との事業連携が可能



*現在のガバナンスが形成されているのは、NGBの設立経緯として、大会運営組織や地域での選手選抜機関、国内代表選手の派遣組織として設立されたのではなく、「する人・団体（コミュニティ）」を主体とした支援組織として設立されたという歴史的経緯が主要因と史料

2. 英国/イングランドのスポーツ政策概要

1. スポーツ振興戦略の推移
2. スポーツ政策における主要プレイヤーと役割
3. スポーツイングランドによるNGB支援事例（Whole Sport Plan）

1. スポーツ振興戦略の推移

- 2002年、英国は、2020年に世界一のスポーツ国家になるための“Game Plan”を策定し、この政策が国民のスポーツ参画の促進やステークホルダー間の連携の重要性認識を高める転機となった。
- イングランドなどの各地方においても、中央政府の戦略をより具体化した戦略策定と予算配賦を行っていた。

2000年代以前の
社会問題

- 福祉軽視や格差拡大に伴う地域社会の不安定化
- 国民の肥満化、医療費の上昇などの健康・社会保障の問題が顕在化

政策の中核としてスポーツを活用

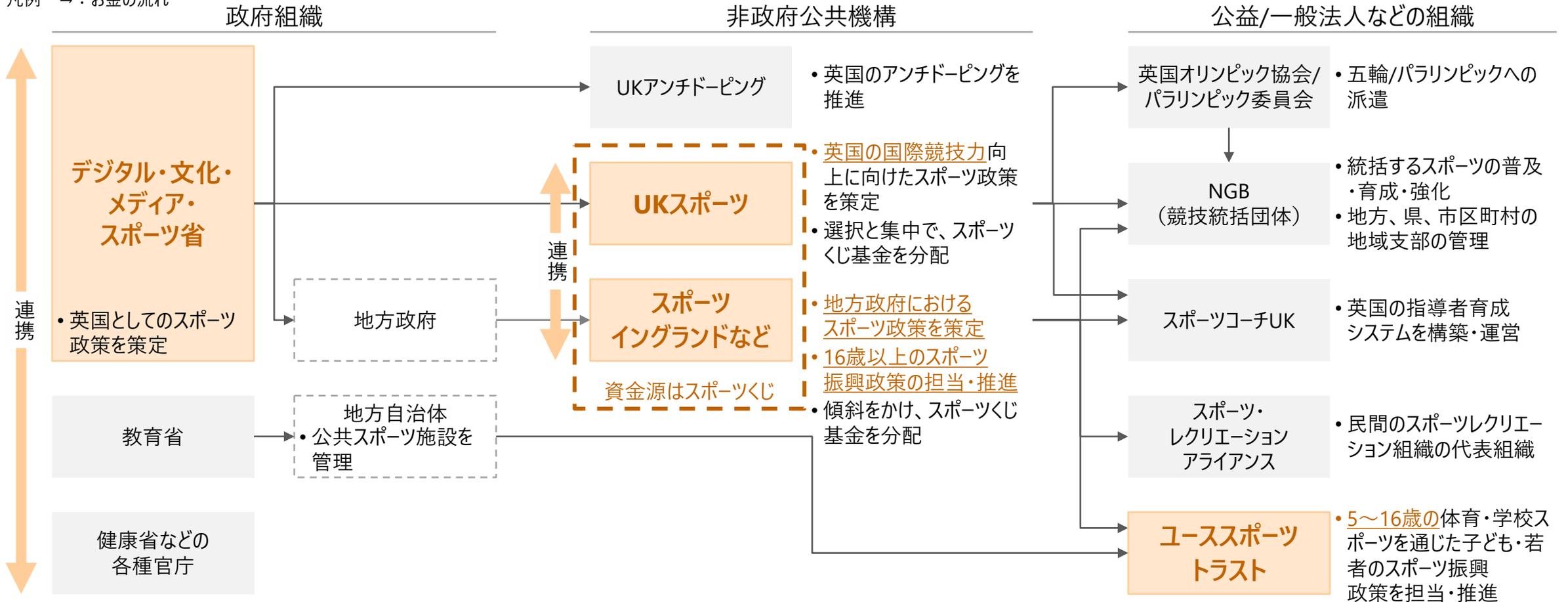
年	英国におけるスポーツ振興戦略（中央政府）	イングランドにおけるスポーツ振興戦略（地方非政府公共機構）
2000	<ul style="list-style-type: none"> • A Sporting Future for All <ul style="list-style-type: none"> • 参加型スポーツの普及、国際競技力向上のためのビジョン・計画 	<ul style="list-style-type: none"> • -
2002	<ul style="list-style-type: none"> • Game Plan <ul style="list-style-type: none"> • 2020年に世界一のスポーツ国家となるために、あらゆるステークホルダーを巻き込み、実行するためのビジョン・枠組み・計画 	<ul style="list-style-type: none"> • The Framework for Sport in England <ul style="list-style-type: none"> • あらゆるステークホルダーの視点を盛り込んだスポーツ振興の大枠と推進ステップ、戦略
2008	<ul style="list-style-type: none"> • Playing to Win: A New Era for Sport <ul style="list-style-type: none"> • スポーツ政策の枠組みが学校体育（5～16歳）、地域スポーツ（16歳以上）、エリートに分類された、目標と基本政策 	<ul style="list-style-type: none"> • Sport England Strategy 2008 – 2011 <ul style="list-style-type: none"> • スポーツ参加者の増大、離脱者へのアプローチ、タレントの育成に向けた計画
2012	<ul style="list-style-type: none"> • - 	<ul style="list-style-type: none"> • Sport England Strategy 2012 – 2017 <ul style="list-style-type: none"> • 五輪終了から5年後の2017年に向け、中央競技団体、学校体育、施設、地域スポーツのための戦略
2015	<ul style="list-style-type: none"> • Sporting Future : A New Strategy for Active Nation <ul style="list-style-type: none"> • 中央政府、地方政府、地方自治体、各種パートナーの役割を再定義し、心身の健康、個々人の能力開発、経済・社会・地域の発展に向けた大枠のビジョン・戦略 	<ul style="list-style-type: none"> • Towards an Active Nation : Strategy 2016 – 2021 <ul style="list-style-type: none"> • スポーツ活動の行動変容モデルを前提とした、スポーツにおける投資領域と投資戦略
2021	<ul style="list-style-type: none"> • - 	<ul style="list-style-type: none"> • Uniting the Movement <ul style="list-style-type: none"> • COVID-19の影響を踏まえた、10年後のスポーツ界に向けた戦略

出典：スポーツプロモーション論（2000年）、スポーツ庁「諸外国および国内におけるスポーツ振興施策等に関する調査研究(平成22年度)」、笹川スポーツ財団「平成29年 諸外国(6カ国)のスポーツ振興施策の比較表」、英国デジタル・文化・メディア・スポーツ省及びスポーツイングランドの公式ホームページを基にABeam作成

2. スポーツ政策における主要プレイヤーと役割

- 主要プレイヤーは、日本同様に多数存在するが、各プレイヤーの連携方針や役割は明確に定まっている。
- 英国では、国際競技力向上は「UKスポーツ」、16歳以上のスポーツ振興とくじスポーツ基金の分配は「スポーツイングランド」、5歳～16歳のスポーツ振興は「ユーススポーツトラスト」が中心的な役割を担う。

凡例 → : お金の流れ



出典：スポーツプロモーション論（2000年）、スポーツ庁「諸外国および国内におけるスポーツ振興施策等に関する調査研究(平成22年度)」を基にABeam作成

3. スポーツイングランドによるNGB支援事例（Whole Sport Plan）

- スポーツイングランドは、NGBが策定した中長期的な普及・強化戦略に助成金を交付することで、政策を執行している。
- 直近の支援方針では、NGBの強みである「既存スポーツ参加者のスポーツ習慣の継続支援」にターゲット変更を行い、助成金を交付している。

2013-2017（総額 £ 450百万 ≒ 約680億円）

2017-2021（総額 £ 250百万 ≒ 約380億円）

施策目的

- 14-25歳の年齢層のスポーツ参加者の増加
- 25歳以上の成人層全体での参加者数の増加
- 既存のスポーツ参加者がスポーツを継続できるスポーツ体験の提供
- 国際競技力の強化に寄与するプログラム開発やタレント発掘
- 障がい者（才能のある障がい者含む）のスポーツ参加者の増加

- 既存のスポーツ参加者がスポーツ習慣を継続させることによる、コアマーケット市場の拡大（NGBの強みを活かせるターゲット設定に変更）
- 世界有数のタレント発掘・開発システムの構築によるメダル獲得数の維持

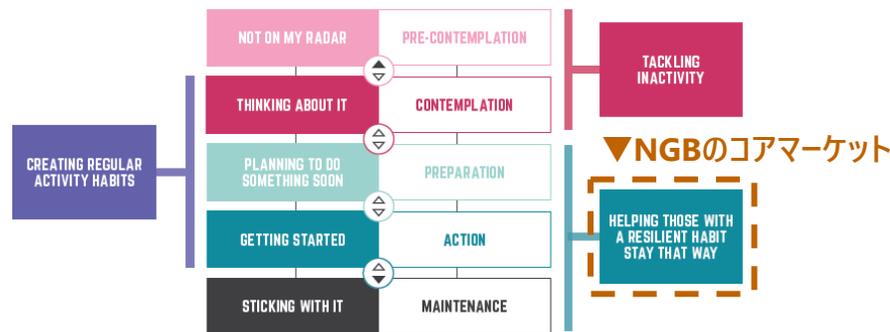
ターゲット （国民）

- エリート : 全助成金の25%以下を設定
- 14~25歳 : 全助成金の60%以上を設定
- 25歳以上 : 残りの助成金を設定

イングランド内で週1回75,000人以上の参加のないスポーツ競技団体は応募不可

スケジュール

- 2012年1~5月 : 説明会~提出期限（パートナー連携含む）
- 2012年10~11月 : プレゼンテーション（オリパラ開催につき）
- 2013年2月 : 助成金交付
- 2013年4月 : 計画運用の開始



2016年3月時点でガバナンスコードの未対応団体は応募不可
協業パートナーとの連携状況によって柔軟に締切は設定

- ~2016年8月 : 各団体への説明・協議
- ~2016年12月 : UKスポーツとの協議含むタレント領域の承認
- ~2017年1月 : 全領域での承認

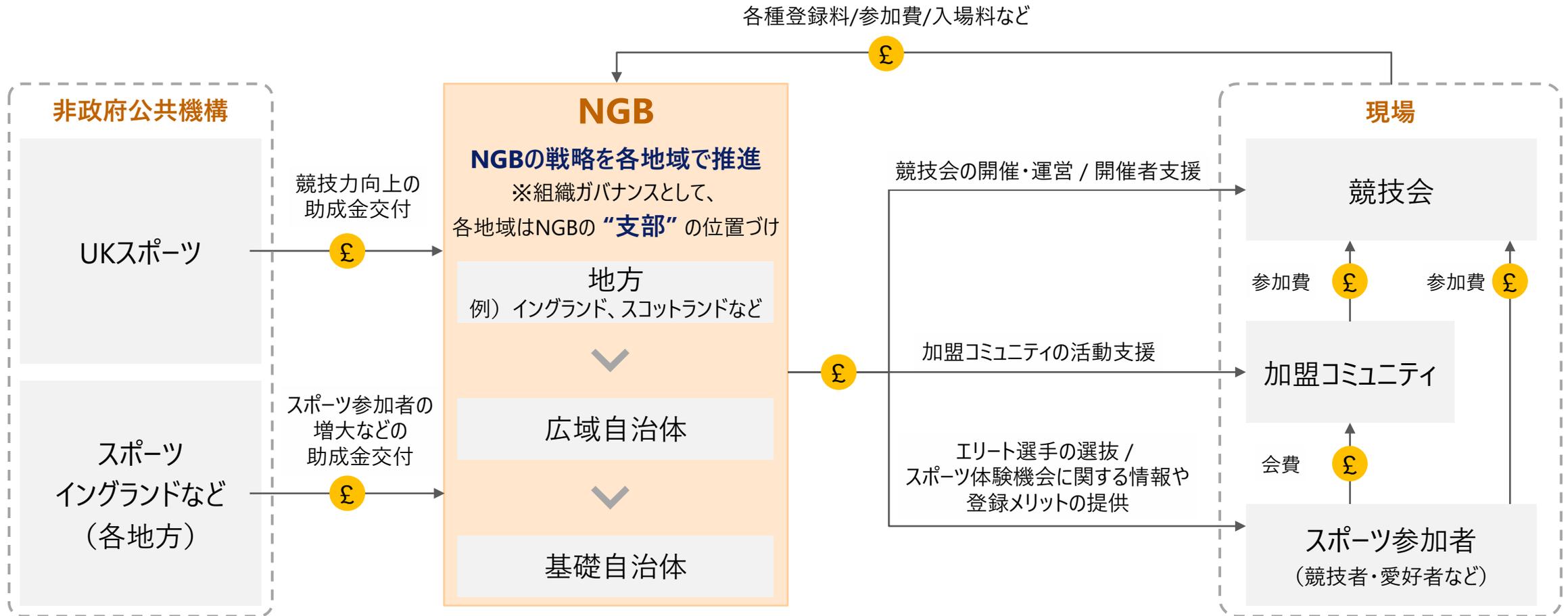
出典：スポーツイングランド「NGB Whole Sport Plan Investment Guideline」を基にABeam作成

3. 競技統括団体の「する人・団体」の普及活動

1. 地域組織との関係性
2. 加盟コミュニティとの関係性
3. スポーツ参加者との関係性
4. 競技統括団体の概況（計6団体）

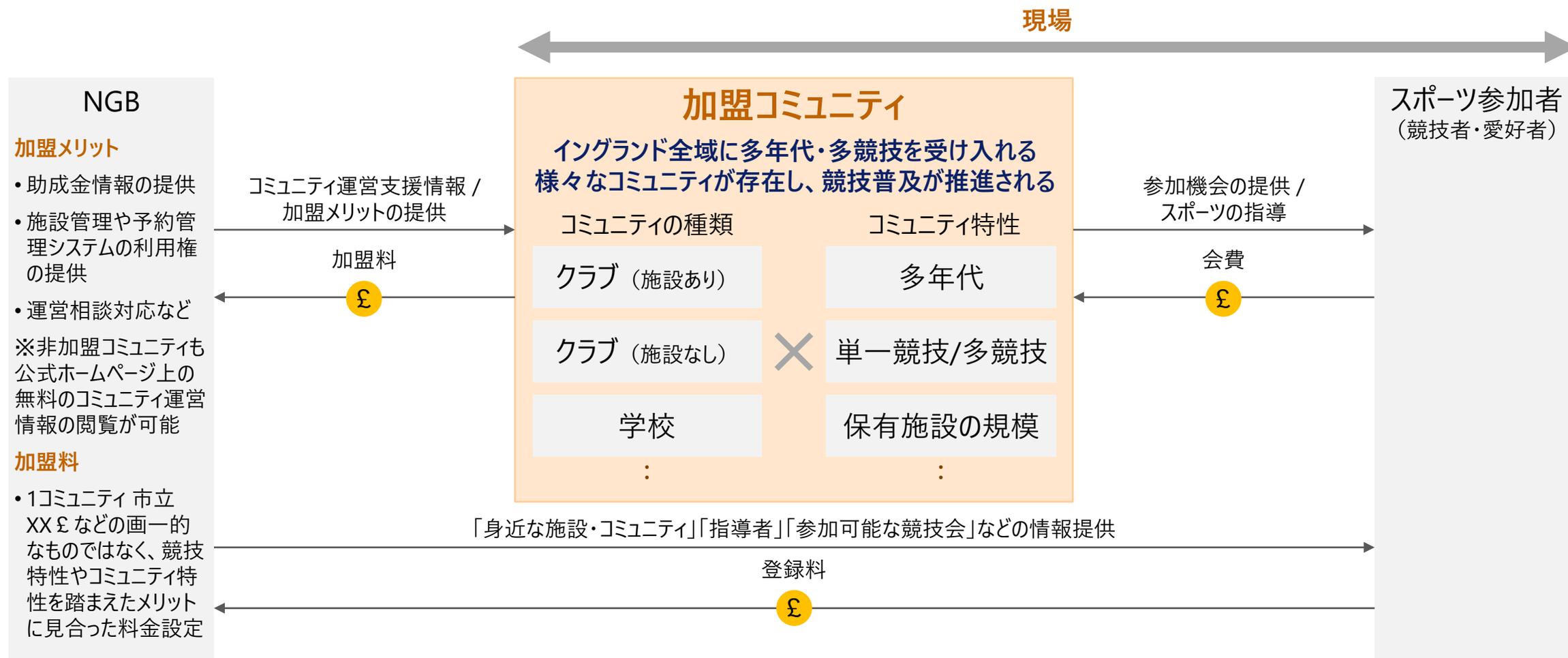
1. 地域組織との関係性

- 地域組織は「NGBの支部」としての役割を有しており、スポーツ参加者の増大などを目的とするイングランドのスポーツ・健康政策が、助成金の交付先であるNGBを通じて、基礎自治体レベルまで浸透する仕組みになっていると推察される。
- 主な活動は日本と大差はないが、加盟コミュニティの活動支援予算を確保していることに特徴がある。



2. 加盟コミュニティとの関係性

- クラブ文化が続く英国では、全域に多年代を受け入れるコミュニティが存在し、様々なスポーツが実施できる。
- NGBが、コミュニティに対し、運営支援のための資金や情報を直接提供する関係を構築しており、NGBの普及戦略・施策が現場まで浸透する仕組みになっている。



2. 加盟コミュニティとの関係性

(参考) 加盟コミュニティへの提供情報

- NGBは、スポーツ活動の受け皿であるコミュニティが持続的に活動できるよう、「経営ノウハウ」「NGB保有システムの利用権」「助成金情報」などを提供している。

一般公開情報

コミュニティの設立や運営に関するノウハウなどの情報を提供

Venue Support Toolkit

Welcome to the LTA's venue support hub - providing the information, resources and support to help you manage, develop and grow your tennis venue and get more people playing tennis.

Venue Registration →
Learn more about our annual scheme for tennis venues across Great Britain to become a member of LTA.

Venue Webinars →
We are delivering a calendar of webinars across all the topics within the LTA Club Support Toolkit. You'll get an overview of the topic, resources and further guidance to support your club.

LTA Rally →
Discover more about the LTA's nationwide booking tool providing an easy way to find, book, access and pay for tennis courts and group coaching sessions. LTA Rally automatically links with your ClubSpark account.

加盟コミュニティ限定情報

より実践的な情報や運営相談対応、助成金情報、施設管理・施設予約などのNGB保有システムの利用権などのサポートを実施

Venue management made easy.

ClubSpark

LTA BRITISH TENNIS

出典：<https://www.lta.org.uk/workforce-venues/tennis-venue-support/>

3. スポーツ参加者との関係性

- NGBは、個人競技・団体競技にかかわらず、スポーツ参加者を会員組織化する管理システムを保有している。
- 登録会員制度は、統括するスポーツの参加者にとって、魅力的なスポーツ体験ができるよう、年代や競技レベル、スポーツとのかかわり方に合わせ、多様なニーズを充足できるような幅広いカテゴリやメリットの設計がなされている。

登録会員制度（メンバーシップ）の概要

対象者	<ul style="list-style-type: none">• 統括するスポーツの参加者（競技者/愛好者などの「する人」や「みる人」）	
登録単位	<ul style="list-style-type: none">• 個人と所属先のコミュニティを登録する場合が存在• 団体競技も個人単位の管理への移行傾向あり	
登録料設定の考え方	<ul style="list-style-type: none">• 競技レベルや競技目的（大会参加/愛好者など）のスポーツ参加者のニーズに基づくカテゴリとメリットを設定• カテゴリごとに異なる登録料を設定 （詳細は後述の「4.競技統括団体の概況」を参照）	<ul style="list-style-type: none">• 会員限定コンテンツへのアクセス権 （例：トレーニングセッションやトーナメントのハイライトなど）• 公式競技会への参加権• スポンサー・サプライヤー商品の割引購入券• 公式競技会のチケット優先権• 強化施設の利用権• 個人成績管理システムへのアクセス権 など
カテゴリ（一例）	 <p>The screenshot shows three membership tiers:</p> <ul style="list-style-type: none">ESSENTIAL: The beginner's choice. Access our community, become part of the family and feel safe knowing you're covered for training. Have fun and leave the rest to us. (Icon: Medal)CORE: The all-rounder. Our original membership package with all the support and benefits you need, including unlimited race licences for the competitive among you. (Icon: Trophy)ULTIMATE: Top of the range. Enhanced partner discounts, increased cover protecting you overseas, plus you receive an ultimate gift every year, on us. (Icon: Three trophies)	提供メリット（一例）  <p>The screenshot lists the following benefits for Essential Membership:</p> <ul style="list-style-type: none">PUBLIC LIABILITY INSURANCE: Be covered 365 days a year during your triathlon training.FREE LEGAL SUPPORT: Legal services to support you if an incident occurs.BICYCLE AND TRAVEL INSURANCE: Find out about great deals from our preferred partner.MEMBERSHIP DISCOUNTS AT LEADING TRIATHLON RETAILERS: Fantastic discounts at great triathlon suppliers.DIRECT DEBIT DISCOUNT, REGULAR UPDATES, SUPPORT & MUCH MORE: All you need to get started in swim, bike, run.

出典：<https://www.britishtriathlon.org/join>

3. スポーツ参加者との関係性 (参考) スポーツ参加者への提供情報

- NGBでは、公式ホームページ上から、統括するスポーツに関心を持った人が「実施できる場所・コミュニティ」「信頼できる指導者」「参加できる競技会」などの情報を得られるよう、情報発信・管理を行っている。

施設・コミュニティ検索

LTA Registered Venues are required to meet the LTA's Safeguarding Standards to provide a safe and friendly tennis environment. We would encourage people to select an LTA Registered Venue to play at

Nearest	Free	Pay & Play	Membership
Lincoln's Inn Fields (0.60 miles) Kingsey, Lincoln's Inn, Camden Town, London, WC2A 2ES		Courts Outdoor x 4	Activities
Archbishops Park (0.64 miles) Archbishops Park, Carlisle Lane, Waterloo, London, SE1 7LG		Courts Outdoor x 2	Activities
LIF Tennis Syndicate (0.68 miles) LIF Tennis Syndicate, Lincoln's Inn Fields, London, WC2A 2LJ		Courts Outdoor x 1	Activities

指導者検索

 Mark Hines Accredited Coach ✓ Accredited to coach adults ✓ Accredited to coach children	Qualification Level 	Geraldine Mary Harmsworth Sports Facility (1.34 miles)
 James Zaman Accredited+ Coach ✓ Accredited to coach adults ✓ Accredited to coach children	Qualification Level 	Geraldine Mary Harmsworth Sports Facility (1.34 miles)
 Christopher Marshall Accredited+ Coach ✓ Accredited to coach adults ✓ Accredited to coach children	Qualification Level 	Vauxhall Park (1.63 miles) Larkhall Park (2.45 miles) National Tennis Centre (6.15 miles)
 Marvin Bramble Accredited+ Coach ✓ Accredited to coach adults ✓ Accredited to coach children	Qualification Level 	Barbican Lawn Tennis Club (1.64 miles) Golden Lane Sport & Fitness (1.71 miles) Myddleton Lawn Tennis Club (8.33 miles)
 John Horler Accredited Coach ✓ Accredited to coach adults ✓ Accredited to coach children	Qualification Level 	Barbican Lawn Tennis Club (1.64 miles)
 Tobias Bawden Accredited Coach ✓ Accredited to coach adults ✓ Accredited to coach children	Qualification Level 	Will to Win - Regents Park (1.68 miles)

競技会検索

Recent

- Wexham Club - Red Ball Tournament**
Wexham Lawn Tennis & Squash Rackets Club
05/12/2021
Matchplay | Grade 6
- Wales Tour - Wrexham Tennis Centre - 5-12-2021**
Wrexham Tennis Centre
05/12/2021
One day tournament | Grade 5
- Wales Tour - Newport Tennis Centre - 5-12-2021**
Newport Tennis Centre
05/12/2021
One day tournament | Grade 5
- Wales Tour - Cwmbran LTC - 5-12-2021**
Cwmbran LTC
05/12/2021
Cancelled | One day tournament | Grade 5

4. 競技統括団体の概況

1. 英国テニス協会

- 英国テニス協会は、2019年にテニス参加人口拡大を目的とした中期ビジョンを掲げており、英国内のテニスコミュニティで色濃く残っていた排他的な文化の改善をテーマの一つとしている。

基本戦略と実施状況

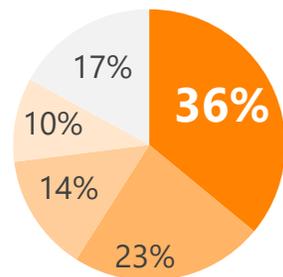
中長期戦略 VISION 2019-2023

ビジョン “Tennis Opened up” を掲げ、多種多様な人をテニスの競技者・愛好者へ行動変容するための7つの戦略の柱を策定

1 Visibility	認知度及び接触機会増加のための大会・イベントの開催
2 Innovation	接触機会提供のための新たな魅力の開発・提供
3 Investment	参加機会提供のためのコミュニティ施設・学校への支援
4 Accessibility	接触機会の創出、わかりやすい情報の提供
5 Engagement	協会関係者、指導者、ボランティアなどのささえる人への支援
6 Performance	持続的な競技力向上に向けた選手発掘・育成の実施
7 Leadership	競技の持続性を高めるための協会の経営力強化

VISION実現に向けた予算配分の状況

2020年度に最も予算を配分したのは、参加促進（普及）



- 参加促進 (1,930万 £)
- 競技力向上 (1,240万 £)
- 大規模イベント (724万 £)
- 広報・マーケティング (560万 £)
- その他団体運営費 (895万 £)

出典：<https://www.lta.org.uk>

加盟コミュニティとの関係性

クラブがNGBに登録し、NGBはクラブの立上げや経営サポートを行うツールキットを提供



主な加盟メリット

- 包括的な施設管理システム
- 施設管理システムと連携した予約管理システム
- 外部団体に対する助成金申請ガイダンス
- 経営に関する各種ウェビナー
- ウィンブルドンのチケット優先購入権

スポーツ参加者との関係性

メンバーシップ制度は、無料・有料・ジュニア（18歳以下）の合わせて8カテゴリを用意

カテゴリ	会費（年）	主なメリット	ジュニア
FAN	無料	サイン入り商品の優先購入権、道具の割引	—
PLAY	無料	競技会結果の管理、道具の割引	○
PLAY+	無料	PLAYの内容+ウィンブルドンの優先購入権	○
FAN+	20 £（年）	チケット優先購入権、ウィンブルドンの優先購入権	—
COMPETE	30 £（年）*	有名ホテルの割引、ナショナルトレーニングセンターの使用権	○

*ジュニアであっても同額

4. 競技統括団体の概況

2. 英国トライアスロン（1/2） - 概況

- 英国トライアスロンは、イングランド、ウェールズ、スコットランドの3地方を管轄し、トライアスロンに加え、「デュアスロン」「アクアスロン」「アクアバイク」「クロストライアスロン」「クロスデュアスロン」「冬季トライアスロン」などの競技も統括している。

基本戦略と実施状況

STRATEGIC PLAN 2019 - 2024

ビジョン “Great experiences through swim, bike, run.” を掲げ、トライアスロンの環境整備と人口増加のために8つの戦略目標の達成を目指し、活動

1	More Participants	参加者の拡大
2	Great Clubs	クラブの成長支援
3	Growing Membership	メンバーシップの拡大
4	Winning Athletes	オリパラ選手へのサポート
5	Exceptional People	優れた人材供給
6	Outstandings Event	優れたイベント開催
7	Excellent Organization	最高水準のガバナンスによる連盟運営
8	Elevated Profile	認知度向上のためのマーケティング・スポンサーシップ

VISION実現に向けた予算配分の状況（2019年度実績）

2019年度の収益は約16億円

UKスポーツの助成金対象団体であり、その収益構成比が最も高いため、最大の投資は競技会の開催及び競技力向上・強化

普及への投資は約1.5億円（構成比約10%）

出典：<https://www.britishtriathlon.org/>

加盟コミュニティとの関係性

「TriMarkClub認定システム」を開発し、コミュニティのレベルに応じたサポートを実施

コミュニティレベル	対象コミュニティ	主な評価観点
Gold	・開発中	・-
Silver	・開発中	・-
Bronze	・18歳以下が所属する全クラブ	・安全な競技環境 ・指導体制 など

スポーツ参加者との関係性

4カテゴリに対し、ジュニア（8歳以上）と大人で別料金を設定されており、提携クラブに所属しているとCore、Ultimateのカテゴリでは10%程の割引料金となる

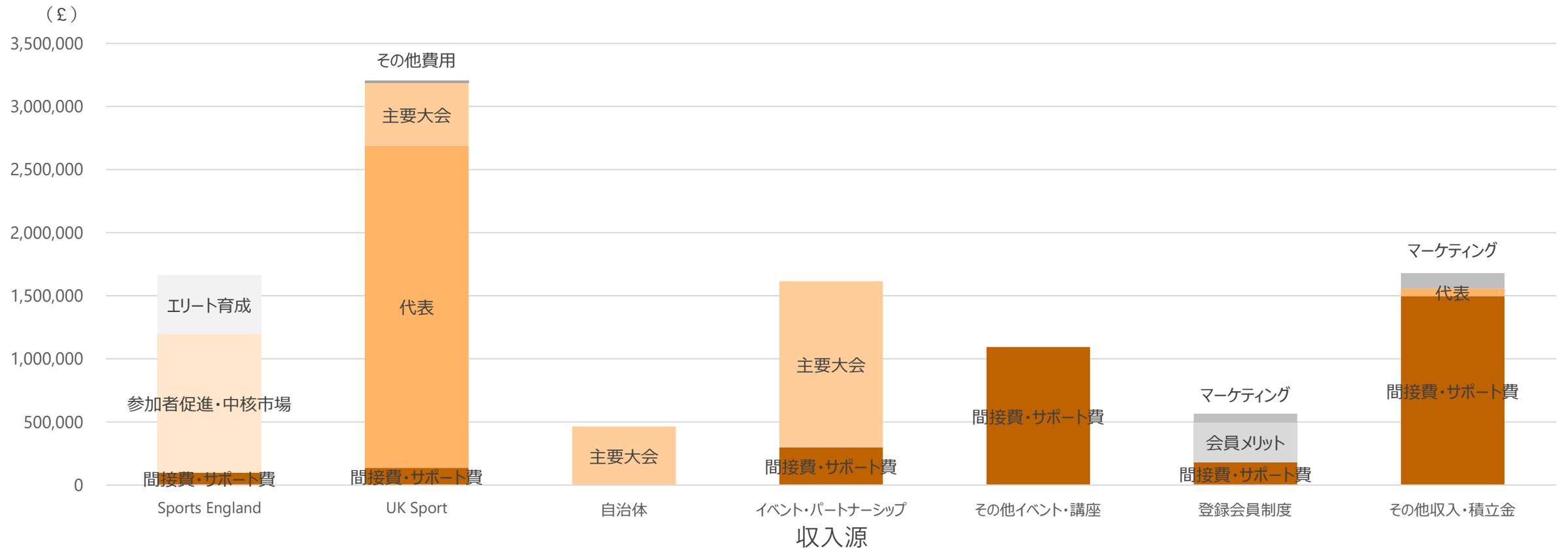
カテゴリ	会費（年）	主なメリット	ジュニア
Supporter	15 £	・道具の割引購入、限定競技会への参加権	-
Essential	26.5 £	・ <u>競技者保険、法的サポート</u>	○
Core	26.5～57 £	・競技会への優先参加権、国際大会への挑戦権	○
Ultimate	49～79.5 £	・海外での保険適用の拡大、VIPイベントの参加権	-

4. 競技統括団体の概況

2. 英国トライアスロン（2/2） - 収入源と資金の活用用途

- 英国トライアスロンでは、収入源とその資金の活用用途を公開している。
- 登録料の活用用途とその内訳が公開されることで、登録会員は登録料を支払う意義や必要性に納得しやすくなると推察される。

英国トライアスロンにおける収入源と資金の活用用途（2020年）



出典：英国トライアスロン「BRITISH TRIATHLON 2020 FINANCE REVIEW」を基にABeam作成

4. 競技統括団体の概況

3. ロイヤルヨット協会

- ロイヤルヨット協会は、英国4地方におけるセーリング種目全般を統括するとともに、COVID-19の流行を受け、中長期計画を休止し、コミュニティ支援やデジタル活用などを中心とした移行計画を策定している。

基本戦略

STRATEGIC PLAN 2017 to 2021

目的として、“To Promote and Protect Safe, Successful and Rewarding British Boating.” を掲げ、メンバー・加盟団体・ステークホルダーのニーズに沿った取組を実施

1	Membership	ニーズに基づいたメンバーシップ制度の提供
2	Performance	タレント発掘パスウェイの整備と競技力向上
3	Participation	実施者増加のためのローカルクラブ支援と認知向上
4	Training	実施者のレベルに合ったトレーニングプログラム提供
5	Support Services	団体の財務基盤とガバナンス整備
6	Cross Functional Programmes	デジタル、多様性、データ、パートナー連携を各取組の中で実施

RYA Transition Plan 2021 to 2022

COVID-19の流行を受けて4か年計画を休止し、3つの重点領域に集中して、1年の短期移行計画を実施

1	<u>Support the sport</u>	<u>クラブに対するサポートとボート活動の許認可に向けたロビー活動</u>
2	Rebuild revenues	財務基盤の整備と多様な収入チャネルの創出
3	Maintain momentum	多様な実施者獲得のための活動（多様性の尊重）維持とデジタルトランスフォーメーションの継続

出典：<https://www.rya.org.uk/>

加盟コミュニティとの関係性

イングランド内7地区とウェールズ、北アイルランド、スコットランドの計10のエリア設定を行い加盟クラブに対して各種支援を提供



主な支援内容

- クラブ向け会員分析情報の発信
- クラブ向けワークショップ、セッション、ウェビナーの提供
- 優良クラブの表彰
- 指導者向けのコンテンツ提供

スポーツ参加者との関係性

道具の割引提供や保険提供などといったメリットを含む個人向けのメンバーシップを提供し、年代によって異なる金額設定をしている

カテゴリ	概要	金額タイプ	金額（年）
Pathway	• 初心者向けのカテゴリ	Under18	17 £
Personal	• クラブ非会員の実施者向けのカテゴリ	Under25	26 £
Associate	• クラブ会員向けのカテゴリ	Adult	47 £
Accredited	• インストラクター・エリート競技者向けカテゴリ		※大人2人+U18 1人向けの割引プランも用意されている

4. 競技統括団体の概況

4. イングランド空手連盟

- イングランド空手連盟は、イングランドにおける空手の強化・普及を推進し、5つの流派ごとの協会やそのクラブ・アカデミーが加盟している。

団体のビジョンとバリュー

VISION 2021

ビジョンとして “to strive to be the best Martial Arts Governing Body within the UK.” を掲げ、以下の活動を推進

- イングランドにおいて 草の根から国内及び国際的な競技者まで平等な機会を提供するための活動
- オリンピックの正式競技となるようにロビー活動

VALUE 2021

1	Professionalism	自己責任、自身の役割を果たすロールモデル
2	Value and Respect All KARATE-KA	流派を超えたリスペクト
3	Open & Honest Communication	組織としての透明性を保ち、オープンなコミュニケーション文化の醸成と促進
4	A Safe Progressive Place To Compete, Train and Grow	安全な空手実施環境の整備と空手界における他者を認める文化の醸成を促進

出典：<https://www.englishkaratefederation.com/>

加盟コミュニティとの関係性

流派ごとの協会、クラブが加盟しており協会は各クラブに対して各種メリットを提供

主なメリット	提供メリット例
国内外の各種大会への参加権	• ヨーロッパ諸国での大会への登録権 • 全国大会への登録権
保険の割引	• 会員に向けた保険契約の割引権提供
<u>組織運営のサポート</u>	• <u>会員向けアドバイス、ガイダンス、ポリシーなどのテンプレート提供</u>
指導者へのサポート	• 指導者養成コースの提供
<u>一般人に向けた露出機会の提供</u>	• <u>一般の人が空手を実施する場所を探す検索機能への登録</u>
会員に対するメリット提供	• NGBが提供するトレーニングプログラムの提供 • <u>ナショナルトレーニングセンターへの利用権</u>

スポーツ参加者との関係性

協会に直接個人が加盟する仕組みは存在せず、流派ごとに存在する協会及びクラブごとに加盟する仕組みを構築

4. 競技統括団体の概況

4. イングランドハンドボール協会

- イングランドハンドボール協会は、ハンドボール人口の増加を目的とした中期計画があり、積極的に他団体との連携を図る。
- また、会員制度の登録単位は、クラブ・チーム単位から、スポーツ参加者の実態把握のため個人単位に移行している。

基本戦略

STRATEGIC PLAN 2017 - 2021

ビジョン “Be part of the excitement” を掲げ、ハンドボール人口の増加のために6つの重点領域・施策を策定

1 The Education Sector	教育セクターへの注力
2 Community Handball	新たな参加機会の提供
3 Clubs and Competitions	クラブへの支援と競技機会提供
4 Talent	タレント発掘・育成のパスウェイ提供
5 Workforce Development	指導者及び従業員の育成
6 Commercial	財務の改善とマーケティング

スポーツ参加者増加のためのパートナーシップ

スポーツ参加者増加のために慈善団体や地方機関ネットワークなどの他団体連携を推進

パートナー名	StreetGames	Active Partnerships
団体概要	・イングランド、ウェールズ、スコットランドの貧しい若者にスポーツをもたらす慈善団体	・スポーツ参加者・身体活動の増加にコミットメントする地方機関ネットワーク
主な活動	・貧困層の若者への機会提供	・教育セクターへの競技会提供のための連携 など

出典：<https://www.Englandhandball.com/>

教育セクター及び加盟コミュニティとの関係性

スポーツ参加者増加に向け、注力する教育セクターに対し、教師用教材を提供
加盟コミュニティに対しクラブ経営サポートなどのコミュニティ運営者の要望に沿う支援を実施

教育セクターへの支援

- ・教員向けのウェビナー開催
- ・教師向けのオフラインコーチングコース開催
- ・教師用教材提供
- ・生徒向けのコーチングコース開催

加盟コミュニティへの支援

- ・コミュニティ会員獲得支援
- ・安全性確保のための支援
- ・メンバー間のコミュニケーション支援
- ・コミュニティのガバナンス設計支援

スポーツ参加者との関係性

NGBが個人単位での関係構築のため、クラブ・チーム単位の登録を2021-22シーズンに移行（詳細未公表）



4. 競技統括団体の概況

6. イングランドホッケー

- イングランドホッケーは、参加人口拡大に向け、若年層獲得施策においては教育セクター及びクラブと連携し、また過去のホッケー経験者の再開促進施策においては健康増進型保険を販売する保険会社と連携している。

団体理念と実施状況

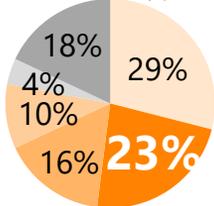
England Hockey Ambitions

Ambitionsとして5つの重点的な取組を掲げ、ホッケーの参加機会を提供し、実施者のロイヤルティを高めることを目指している

1	International Success	男女共に世界ランキング3位以内に入ることを目指し、強化プログラムを整備
2	Increased Visibility	ホッケーのファン層を3倍に増やすことを目指し、ライブ放送などの接触機会増加に向けた活動
3	<u>Growth In Participation</u>	<u>ホッケー実施人口を2倍にすることを</u> 目指し、 <u>各クラブのサポート及び教育セクターへの支援</u>
4	<u>Develop Hockey's Infrastructure</u>	<u>実施人口及びファン獲得のためにクラブに対するプログラムの開発と導入</u>
5	Be Proud and Respected Custodians of Hockey	助成金収入に依存しない財務基盤の構築と適正なガバナンスを備えた団体へ移行

Ambitions達成に向けた予算配分の状況

参加促進のためのクラブ支援に全体の23%の予算を配分



- 競技力向上 (255万 £)
- 参加促進・クラブサポート (202万 £)
- 商業・イベント (137万 £)
- コーチング及びタレント育成(84万 £)
- マーケティング (32万 £)
- その他団体運営費 (158万 £)

出典：<https://www.englishhockey.co.uk/>

教育セクター及び加盟コミュニティとの関係性

スポーツ参加者増加に向け、若年層向けの教育セクターに教師用教材を提供し、また全世代向けの加盟コミュニティにコミュニティ運営者の要望に沿う支援を実施

教育セクター（若年層向け）への支援

- Primary School向け、Secondary School向けで対象別のプログラム提供
- 教師向けのオフラインコーチングコース開催
- 教師用教材の提供
- 生徒向けのコーチングコース開催

加盟コミュニティ（全年代向け）への支援

- 運用基準（ClubMark基準）に基づく各クラブの運営評価
- 実施希望者とのマッチング機能の提供
- メンバー間のコミュニケーション支援
- コミュニティのガバナンス設計支援

スポーツ参加者との関係性

原則的に教育セクター・クラブを通して会員登録をするシステムとなっており、多様なクラブカテゴリを設定。加えてボランティア志願者向けにも各種メリットを提供

会員カテゴリ（クラブ）	会員費（年）	<u>ボランティア志願者向けメリット</u>
Junior、Masters（35歳以上）	48 £	• 支援機会の情報 • 大会へのボランティアとしての参加権
University	81.22 £	• 国際大会ボランティアへのキャリアパス
Mixed（男女混合）、Senior	221.63 £	• ボランティア向けツールキットの供給 • ボランティア中の軽食・飲料の提供

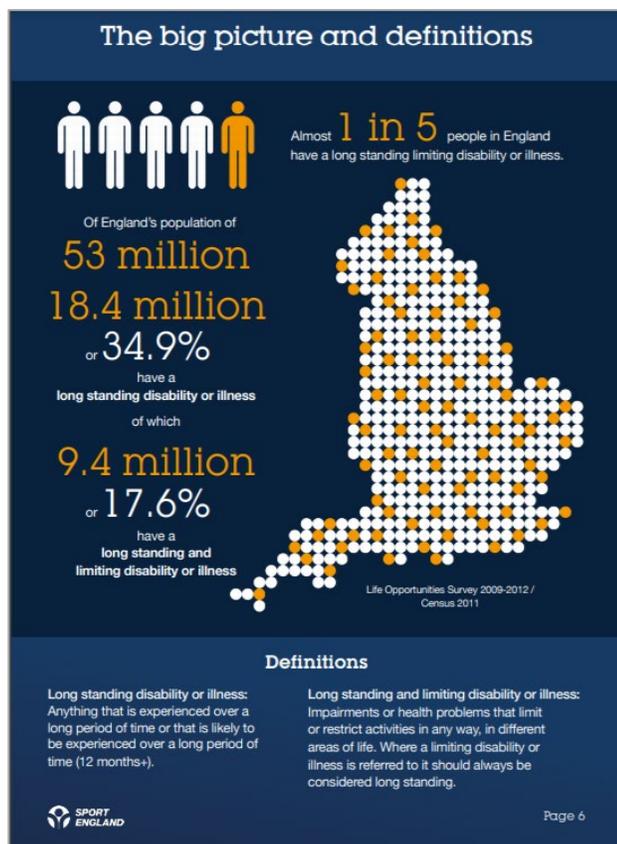
4. パラスポーツの普及施策

1. スポーツイングラウンドにおけるバリアフリー化に向けた普及施策
2. 競技統括団体におけるバリアフリー施設の普及施策
3. スポーツ施設のバリアフリー化状況

1. スポーツイングランドにおけるバリアフリー化に向けた普及施策

- 英国では、2004年に障害者差別禁止法の改正により、スポーツ施設が障がい者の利用を拒むことが禁止された。
- スポーツイングランドの公式ホームページは、障がい者に関するファクト集やハードバリアへの対応策として「アクセス可能なスポーツ施設」のガイドライン、ソフトバリアへの対応策として「障がい者理解のためのガイドライン」を発行している。

障がい者に関するファクト集



施設ガイドライン（提供情報の構成）



■ 提供情報の構成

- スポーツ施設のアクセシビリティ評価のガイダンス
- アクセシビリティ評価（チェックリスト）サンプル

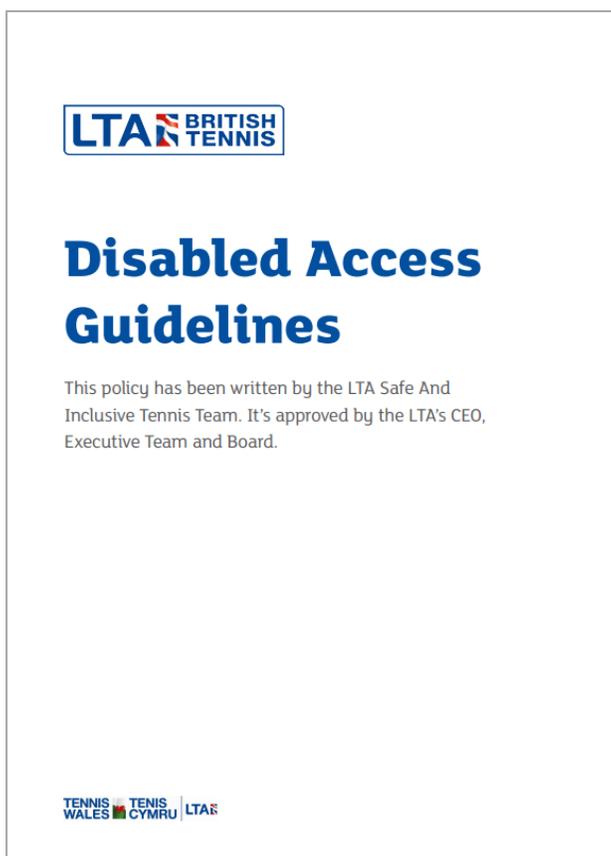
障がい者のスポーツ参加に向けたガイドライン



2. 競技統括団体におけるバリアフリー施設の普及施策

- 一部のNGBは、加盟コミュニティに対して障がい者受け入れのための施設ガイドラインを、「する人」に対して障がい者対応が可能な施設情報を提供し、スポーツ参加におけるダイバーシティ&インクルージョンに向けた環境整備に取り組む。

障がい者向け施設ガイドライン（英国テニス協会）

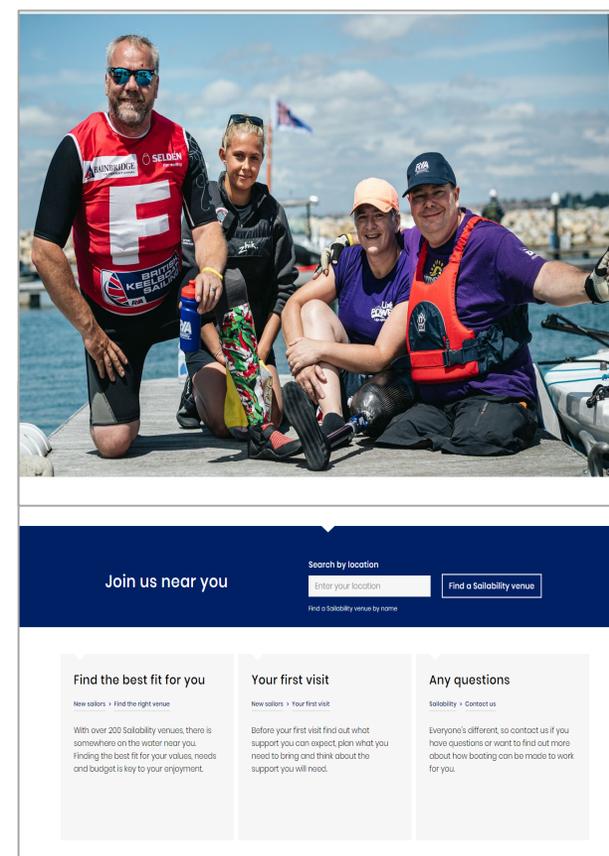


The image shows the cover of a document titled "Disabled Access Guidelines" from the LTA (Lawn Tennis Association) British Tennis. The cover features the LTA logo at the top left and the title in large blue font. Below the title, it states: "This policy has been written by the LTA Safe And Inclusive Tennis Team. It's approved by the LTA's CEO, Executive Team and Board." At the bottom, there are logos for "TENNIS WALES", "TENIS CYMRU", and "LTA".

■ 目次と掲載事項（例）

1. 導入
背景となる法令や規則などを踏まえた前提知識を掲載
2. 設計&管理ガイダンス
コミュニティが施設設計をする際に考慮すべき規程などを掲載
3. FAQ
施設設計、コミュニティ管理・運営に関するFAQを掲載

障がい者対応が可能な施設検索機能（ロイヤルヨット協会）



The image shows a screenshot of the RYA website's search function for sailing venues. At the top, there is a photograph of four people on a boat. Below the photo is a search bar with the text "Join us near you" and "Search by location". The search bar contains the text "Enter your location" and a button labeled "Find a Sailability venue". Below the search bar, there are three columns of text: "Find the best fit for you", "Your first visit", and "Any questions".

■ 提供情報（例）

- 施設検索条件
最寄りの施設
行いたい船種
コミュニティから提供されるサービス
- 施設選択の考え方
- 初訪問に向けたサポート情報
コミュニティに事前確認すべき情報
コミュニティから得られるサービス例
持参する服・備品
飲食
天候への対応の考え方
- 質問（問合せフォーム）
- 興味・関心を喚起するための情報
若者（男性）向けの体験ストーリー
若者（女性）向けの体験ストーリー
大人（男性）向けの体験ストーリー
大人（女性）向けの体験ストーリー
グループ向けの体験ストーリー

出典：<https://www.lta.org.uk/globalassets/venue/disabled-access-guidelines-2017.pdf>

出典：<https://www.rya.org.uk/start-boating/sailability/new-sailors>

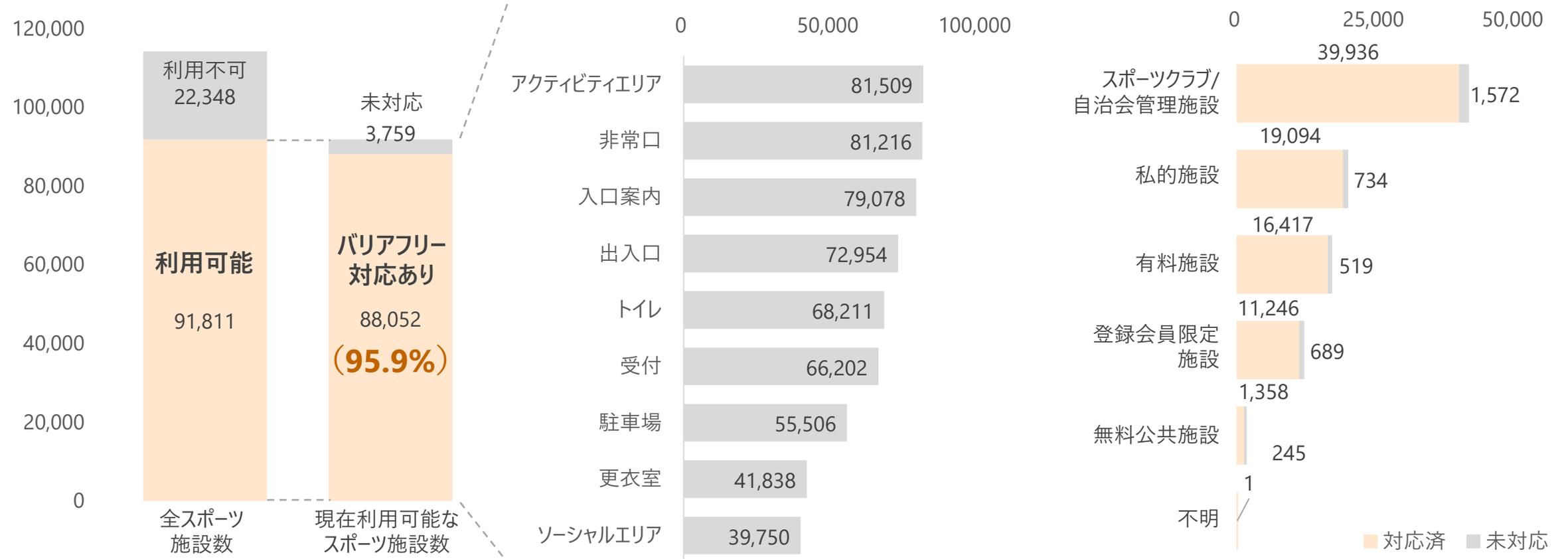
3. スポーツ施設のバリアフリー化状況

- 障がい者が継続的にスポーツ参加できるよう、イングランド内のスポーツ施設の約9割が、何らかのバリアフリー設備を設置している。
- しかし、トイレ・更衣室などの衛生管理施設や移動手段にかかわる駐車場などは未対応の施設も多い。

スポーツ施設のバリアフリー化状況（2021/9時点）

バリアフリー設備の設置状況（n=88,052）

（参考）施設管理者ごとの対応状況（n=91,811）



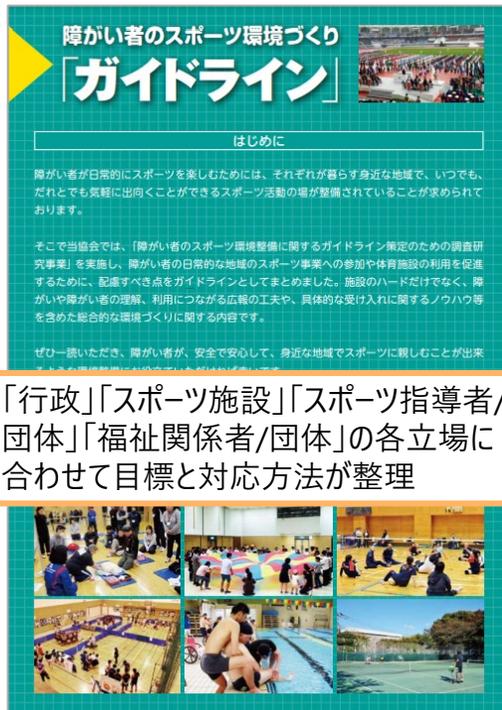
出典：<https://www.activeplacespower.com/opendata>

- 日本では、2016年に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行され、国・地方自治体・民間事業者は、障がい者に対し、正当な理由のない不当な差別的取扱いをすることが禁止された。
- 2018年の調査では、スポーツ施設での障がい者受け入れは進むが、ハード面・ソフト面共に高いバリアが存在している。

パラスポーツの普及施策

スポーツ施設におけるバリアフリー化の現状*

障がい者のスポーツ環境づくり
「ガイドライン」



「行政」「スポーツ施設」「スポーツ指導者/団体」「福祉関係者/団体」の各立場に合わせて目標と対応方法が整理

障がい者スポーツ指導者資格制度

日本パラスポーツ協会公認指導者

- 障がい者スポーツ指導員
一般的な障がい者のスポーツ参画を支援
- 障がい者スポーツコーチ
パラリンピックなどの国際大会で活躍する競技者を支援
- 障がい者スポーツトレーナー
障がい者に関する専門知識を有し、リハビリやトレーニングなどの面で支援
- 障がい者スポーツ医
障がい者のスポーツ・レクリエーション活動に向けた医学的側面から支援

バリアカテゴリ	対象領域例	実態
ハードバリア	施設	バリアフリー設備を備えた施設は 5割未満
	用具	障がい者向けの用具貸出を行うスポーツ施設は 1割未満
ソフトバリア	障がい者の受け入れ状況	8割以上 のスポーツ施設で受け入れ
	施設管理者	障がい者スポーツ指導者資格の所有者が 1割未満

出典：日本パラスポーツ協会「障がい者のスポーツ環境作り『ガイドライン』」、スポーツ庁「平成30年度スポーツ庁委託事業『障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者のスポーツ施設利用及びスポーツ参加の課題等の調査研究）報告書』」*を基にABeam作成

*「野球場・ソフトボール場」「多目的運動広場」「水泳プール（屋外・屋内）」「体育館」「庭球場（屋内・屋外）」「トレーニング場」のある施設を対象に2018年にアンケート実施（n=286）

英国における競技普及に関する調査レポート

2022年3月

本資料は、スポーツ庁の委託事業としてアビームコンサルティング株式会社が作成したものです。

「英国における競技普及に関する調査レポート」は、令和3年度スポーツ産業の成長促進事業「中央競技団体の経営力強化推進事業（経営基盤強化の促進）」の一環として作成されたものです。